恩林寺広報

No 116
令和二年（二〇二〇）新年号
臨済宗建長寺派東光山恩林寺
電　話　〇二七六―八八―三五六四
ＦＡＸ　〇二七六―八八―四一三二
郵便番号　三七〇―〇六〇一

謹賀新年

明けましておめでとうございます。本年も檀信徒各家の平安を、心よりご祈念申し上げます。

恩林寺　閑栖　前田明堂
〃　住職　前田貴洲
〃　責任役員　小林武男
〃　〃　松原荘一
〃　〃　堀越眞澄
〃　檀徒総代　加藤和久
〃　〃　小林誠
〃　〃　茂木勲
〃　〃　鴇田征史
〃　〃　阿部照美
〃　奉讃会役員一同

◎新年祈祷会

一月二日午前十時より、例年の通り厳修致します。新年の天下泰平、万民豊楽、仏法興隆、五穀豊穣等々を願い、ご祈祷致します。尚、当日は恒例による福運だめしのくじ引きを用意してございます。本年の運勢を占い、一年の計をおたてください。

◎大晦日除夜鐘撞き

・大晦日午後十一時半より除夜諷経、第一聲。参加者全員が撞く事ができます。甘酒やココア等の接待あり。

般若札（守護札）は玄関内側の上部に貼り付けておくと良いでしょう。外からの邪鬼の侵入を防いでくれると言われてり居ます。

除夜の意義

除夜は、旧年を除く一年最後の日「除日」の夜です。それまでに大掃除や、身の回りの整理整頓に努め、除夜にはご先祖さまに一年の平安を感謝し、数え年一歳を重ねます。「除夜の鐘」で身も心も清め、迎える新しい年の人生目標を「誓願」します。大事なのは反省とともに。新年の誓いです。もろもろの煩悩を闇を除いて、新年のまばゆい朝を迎えます。

仏教の教えで「大切なのは未来」だとされています。「一年の計は元旦にあり」と申しますが、除夜の時に既に新年を迎える誓願、一年の計を心したいものです。

除夜の「除」は古いものを捨てて、新しいものに移るという意味があります。「ご恩（ゴォ～ン）ご恩（ゴォ～ン）」と、一年間に積もった心の垢や汚れを浄化する気持ちで除夜の鐘を撞けば、新年は清らかで素晴らしい年になることでしょう。

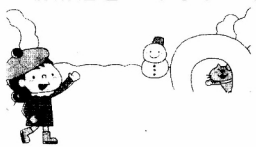
初夢の語らい

一月の和風月名は「睦月」です。

「正月は身分の上下なく、また老いも若きもお互いに従来して拝賀し、親族一同集まって娯楽遊宴するという睦び月」の意であり、このムツビツキという言葉が訛ってムツキになったという説が有力だそうです。

普段中々一緒に過ごすことのできない家族親族が、ゆったりとした時間に寛ぎ、お互いの抱負や希望を語り合うことができたら素敵ですね。

子供達が幼い頃の我が家のささやかな楽しみは、それぞれの初夢を披露しあうことでした。夢の中は幻想や妄想の世界です。「どんな突飛な世界を夢みているのか」子供達の頭の中を覗くのは、その成長ぶりを窺うこともできて親にとっては格別でした。



照顧脚下

▼あなたは、今、どこに立っていますか

禅寺の玄関で、この言葉をよく見かけます。「照顧」とは、注意して良く見ること。「脚下」とは、足元のこと。

つまり、玄関では「履物に注意。そろえて脱ぎなさい」とか、「乱雑はだめ。足元に気を配りなさい」ということです。

ところで、この言葉を生き方にあてはめてみると……

「あなたは、今、立っている場所がわからなくなっていませんか」

「ご自身の足元を、しっかり確かめてください！」となります。

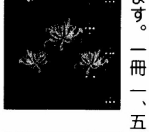
まずは、自分の立っている場所を確認し、しっかりと大地に立つ。それから、次の一歩を踏み出すのです。そうすれば、その一歩は自然と納得のいく、自身のある一歩となることでしょう。

もし、仮にその一歩が誤ったものだったとしても、反省すればすむこと。後悔の一歩にはならないはずです。反省の一歩と後悔の一歩では大ちがい。反省の一歩なら、次の一歩にその反省を生かし、正しい方向へ向かうように修正すればいいのですが、一歩は、何故、あのときの一歩を踏み出してしまったかと、いつまでも引きずることになって、進歩がありません。

現代人の多くが、時間に追われる毎日を過ごしています。そして。こんな時代だからこそ、しっかり立ち止まってみることが必要なのです。しっかり立ち止まって、自分の足元をたしかめてみると、今まで見えなかったことが、よく見えるようになります。次の一歩を踏み出すのは、それからで十分でしょう。止まってみることは、決して無駄にはなりません。自分の立っている場所を確認することで、次に向かうべき方向が見えてくるのですから。

●オリジナルご朱印帳●

恩林寺オリジナルのご朱印帳を作製致しました。当山のご本尊様（薬師瑠璃光如来）の瑠璃の字をイメージさせる、青を基調としたデザインに彼岸花の絵柄を加え、また邑楽町の伝統的工芸品「中野絣」をイメージした模様が加えられています。一冊一、五〇〇円（ご朱印代は別途）



恩林寺ホームページ

恩林寺に関する情報が満載です。動画や写真をまじえ、過去の行事や出来事、案内事項など常に新しい情報を発信して居ります。是非ご覧になって見てください。

URL http://www.onrinji.net/

●絵で見る禅の修行生活　雲水日記㉑

※雲水（うんすい）修行僧のこと。行雲流水のように淡々として一処に止住せず、正師を求めて遍歴する意よりくる。

茶礼

粥座を終わって堂内へ戻る。すぐ茶礼である。一つの薬罐の茶を打揃って飲む茶礼が禅寺では重要な儀礼だ。総茶礼、衆評茶礼もあるが、朝夕二回の茶礼は点呼の意味もあって席を欠かされぬ。また、その作法たるや誠にやかましい。侍者がまず聖僧に献茶し、のち大衆に注いで廻る。隣単と茶碗を寄せ合って注ぎやすくし、茶碗はいちおう右膝前に置き全員行きわたったところで一同合掌して飲むといったぐあい。飲み残しを前に捨てたりしてはならない。やがて順槌も終わると侍者は、「本日、日供集米！」とその日の行事や作務の振り割りを厳しく呼ばわって告げる。秩序と和合の中に、疲れを取り鋭気を養う茶礼だ。

番茶で朝礼

僧堂日々の行事は一ヶ月を次のごとく三分して行なう。一、六、三、八の日―托鉢。二の日―集米。七、五、十の日―提唱。四、九の日―剃髪、内外大掃除、入浴。特に十四日、晦日は「大四九」という。休息日以外はいずれも午後に必ず作務が課せられる。